

## EVENT INFO

### Live & Seminar 第4ターム

音楽を楽しみながら、電気のこと、未来のことを考えよう!  
**Vol.4 9.26(土) Vol.5 10.24(土)**  
 11:30開場 / 12:00開演 2,000円 (F&D付)  
**@ban.K ベルクヒュッテ** (中央区盤渓410番地)  
 主催: NPO法人ベターデイズプロジェクト

### shut泊「自然エネルギーと原発の これからの考える連続講座」

**9.24(木)18:00開場 / 18:30開演**  
 「避難計画と立地自治体問題のこれからを考える」  
 講師: 佐藤英行 (原発問題研究会代表・岩内町町議)  
**10.29(木)18:00開場 / 18:30開演**  
 「基準地震動と泊原発再稼働問題のこれからを考える」  
 講師: 小野有五 (北海道大学名誉教授)

**@エルプラザ2F 環境研修室**  
 参加費: 各回500円 (資料代含む)  
 主催: shut泊 (skawahara1217@nifty.com)

### 脱原発カフェ atチカホ

**10.18(日)10:00-16:00**  
 かわはらし先生の出前授業  
**@チカホ・憩いの広場L-a.L-b**  
 11:00-12:00 原発のお話 14:00-15:00 福島のお話  
 主催: 泊原発の廃炉をめざす会

### 人と自然の共生についての連続講座 シゼントトモニイキルための 「自然循環農法」

**10.24(土)15:00**  
**@古民家Gallery 鴨々堂** (札幌市南7西2  
 ジャスマックプラザホテル東向い)  
 会費: 3000円 要予約  
 (料理代込・飲み物持ち込み自由)  
 予約・問い合わせ: フーム空間計画工房  
 (011-613-5702 humu@humu.jp)

## 「Better Days」サポートのお願い

「Better Days」編集部では、以下の項目についてサポートしていただける方を募集中です。

### 広告スポンサー

誌面に広告を掲載することで資金面での支援をお願い致します。(年間全6回契約)

### カンパ

可能な時に可能な範囲で、資金面での支援をお願い致します。(契約なし)

### 設置・配布店舗

毎号10~50部程度置かせていただくことで、普及啓蒙面で支援をお願い致します。

### カンパのご入金先

随時受付中。発刊の度に郵送いたします。

ゆうちょ口座: 02730-3-47837

加入者名: NPO 法人ベターデイズプロジェクト

## NPO法人ベターデイズプロジェクト 会員募集のお知らせ

仲間が増える! 楽しいから  
学びが増える! 続けられる!

主催イベント「Live & Seminar」、協力イベント「林田健司流 復興支援歌プロジェクト・みんなの音がさね」、フリーペーパー「Better Days」編集、その他、各協力団体主催イベントへの支援など、ともに活動していただける仲間を募集しております。

**一般/法人会員** 一口1,000円×12ヶ月 (議決権を有します) ※ともに一年ごとの更改となります。  
**賛助会員** 一口5,000円×12ヶ月 (議決権はありません)

お問合せ・お申込はメールにて承ります

info@betterdays-project.net スマートフォン・携帯電話からのご連絡の場合、betterdays-project.netからのメールを受信できるよう設定して下さい。エラーで届かないことがあります。

## 3.11後の生き方 Living the Life After 3.11



子どもたちの未来への不安と絶望

2011年の夏、福島の子どもたちが総理大臣や官僚たちに手紙を書いて渡すというイベントがありました。当時の総理大臣である菅首相は、辞める直前でしたので出席しませんでした。経産省や文科省の官僚たちに、福島から来た子ども達が、自分たちが書いた手紙を直接、手渡したのです。その中のひとつで、小学校五年生の女の子の書いた手紙の一部を紹介します。

「わたしの夢は去年と全くちがいます。放射線をなくしてほしいです。ひんなくいきてほしいです。平和な国にもどってほしいです。ふつうの子供を産みたいです。長生きしたいです」

「いつそのこと、原発なんて全部爆発

いまして、福島県の子どもたちはたとえ声に出さなくとも、未来の自分たちの命と健康について大きな不安を抱いているだけでなく、自分自身の未来に対しての希望や夢を持つことも難しくなっているのではないのでしょうか。

同じ頃、また別の新聞の「読者の声欄」に、福島県の高校の先生が紹介していた、ある高校生のこのような声には、なぜ自分たちだけが、このようなひどいめに遭わなければならないのか!という、大人たちへの怒りと不信がこめられているように思います。

「しちやえはいんだ!」



原発のことを語るようになって

原発のことを子どもたちに語るということは、たんに原発や放射能についての知識や情報を伝えるということだけでなく、原発とはどういうものなのか、これから原発をどうしなければならぬのかを、いっしょに考えることなのではないでしょうか。

学校で教えることのほとんどには「正解」があります。しかし、この原発と放射能の問題については、たったひとつの「正解」というのは、ないのかもしれない。だから、原発のことを語るということは、そのような「正解」のない問題を子ども・若者たちといっしょに考えていくということなのではないでしょうか。

まず大事なことは、原発と放射能についての本当のことを、しっかりと彼らに伝えること。そして、いま起きている原発と放射能の問題に、まず大人自身がいっしょに取り組んでいくこと。そして、これからの日本のエネルギー問題と未来の社会像についての見通しとビジョンをしっかりと提示して、それに

お知らせ

8月31日をもって高校教員の職を辞し、大学で教職課程を担当する教員として、教師を目指す学生たちの指導にあたることとなりました。

向けての努力を始めること。そのような困難なことから、しっかりと立ち向かっていく大人の真剣な姿を見せることでしか、子ども・若者たちの未来への希望と大人への信頼を回復することはできないのだと思います。そこからですが、私たちは、彼らに向けて原発のことを語ることは出来ないのでしょうか。

